

保育園等において予防すべき感染症と出席停止期間の基準

高岡市子ども・子育て課(令和6年4月)

※印は、医師の登園許可(園にある登園許可書に証明)が必要です。

◎印は、医師による登園許可書は必要ありませんが、登園再開時に保護者記入の治癒報告書の提出が必要です。

番号	病名	潜伏期間	主な症状	感染経路	登園基準	予防接種・備考
1 ※	麻疹 (はしか)	8~12日	発熱、咳、鼻水、目やに、頬の内側に 白い斑点状コプリック斑ができる。 その後、顔や頸部に発疹。	空気・飛沫 ・接触感染	解熱後3日経過していること	麻疹・風しん混合ワクチン 定期接種:2回 1期 1歳から2歳に至るまでの間
2 ※	風しん (三日はしか)	16~18日	発熱と同時に顔に発疹。耳の後ろ・ 首・後頭部などのリンパ節の腫れ。	飛沫感染 接触感染	発疹が消えていること	2期 年長児
3 ※	百日咳	7~10日	感冒様症状から始まる。次第に咳が強くなる。 1~2週で特有の咳。咳は夜間に悪化する。 乳児期早期では無呼吸発作からチアノーゼ、 痙攣、呼吸停止となることがある。	飛沫感染 接触感染	5日間の抗菌性物質製剤 (=抗生剤)による治療終了 か、特有の咳が消え、全身状 態が良好であること	4種混合ワクチン(ジフテリア・ 百日せき・ポリオ・破傷風) 定期接種:初回3回 追加1回 計4回 生後3か月から7歳6か月に至るまでの間
4 ※	水痘 (水ぼうそう)	14~16日	水疱のある発疹が全身に次々と出る。 痂皮化し先に出たものから治っていく。	空気・飛沫 ・接触感染	すべての発疹が痂皮(かさぶ た)化していること	水痘ワクチン 定期接種:2回 1歳から3歳に至るまでの間
5 ※	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16~18日	発熱。まず片側ないし両側のあごの後ろ が大きく腫れて痛む。食欲減退、嚥下困難。	飛沫感染 接触感染	腫れが出た後5日を経過し、 かつ全身状態が良好であるこ と	おたふくかぜワクチン 任意接種:2回 1歳以上
6 ※	咽頭結膜熱 (プール熱)	2~14日	発熱、のどの痛み、結膜の充血、 食欲不振が3~7日続く。涙が多くなる。	飛沫感染 接触感染	主症状消失後2日経過してい ること	夏季に流行が見られるが、 一年を通して罹患する。
7 ※	流行性角結膜炎 (はやり目)	2~14日	涙、目やに、異物感、結膜充血。	飛沫感染 接触感染	医師により感染のおそれがない と認められていること	極めて伝染力が強い。 タオル等の共用をしない。
8 ※	腸管出血性大腸菌 感染症(O157等)	10時間~6日 O157は3~4日	腹痛、血便、水様下痢便、嘔吐、発熱、 脱水症状。	経口感染 接触感染	医師により感染のおそれがない と認められていること	
9 ※	急性出血性結膜炎	1~3日	急性結膜炎で結膜出血が特徴	飛沫・接触	医師により感染のおそれがない と認められていること	ウイルスは一か月程度便中に 排泄されるので手洗いの励行。
10 ※	髄膜炎菌性髄膜炎	4日以内	頭痛、発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	飛沫感染 接触感染	医師により感染のおそれがない と認められていること	髄膜炎菌ワクチン 任意接種:1回 2歳以上
11 ◎	インフルエンザ	1~4日	突然の高熱が3~4日間続く。全身症状(全身 倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛)を伴う。 咽頭痛、鼻汁、咳嗽	飛沫感染 接触感染	発症後5日を経過し、かつ 解熱した後3日を経過してい ること	季節性インフルエンザワクチン 任意接種:2回 生後6か月から接種可能
12 ◎	新型コロナウイルス	1~14日	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、 下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等。 無症状の場合もあり。	飛沫感染 接触感染 エアロゾル感染	発症後5日を経過し、かつ 症状軽快後1日を経過してい ること	コロナワクチン 任意接種
13	溶連菌感染症	2~5日	発熱、咽頭痛を発症、舌の腫れ、全身に鮮紅色 の発疹等。	飛沫感染 接触感染 経口感染	抗菌薬の内服開始後24時 間以上経過し、全身状態 が良好であること	
14	伝染性膿痂疹 (とびひ)	2日~10日	虫さされ、湿疹を掻いた後、水疱の ある湿疹ができる。かゆみを伴う。	接触感染	びらん面が乾燥していること	湿潤部位はガーゼで覆い、他の児が 接触しないようにする。
15	ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス) (ノロウイルス)	1~3日 12~48時間	下痢、嘔吐、軽度の発熱。 ロタウイルス(冬から春にかけて流行) ノロウイルス(秋から冬にかけて流行)	経口感染 接触感染 食品媒介感染 空気・飛沫感染	発熱や下痢や嘔吐がなく、普 段の食事ができること	ロタウイルスワクチン 定期接種:生後6週から生後24~ 32週までに完了 排便後の便(オムツ)、嘔吐物 の処理や手洗いの徹底。
16	マイコプラズマ肺炎	14~21日	咳、発熱。解熱後も咳が3~4週間持続する。	飛沫感染	発熱・激しい咳が治まってい ること	
17	突発性発しん	9~10日	3日間程度の高熱。解熱後体幹部を中心に 鮮紅色の発疹が出る。	飛沫・接触 ・経口感染	解熱後1日以上経過し、全身 状態が良好であること	生後6か月から2歳によくみられる。
18	手足口病	3~6日	口内、手のひら、足の裏、臀部、膝 に小さな水疱。発熱を伴う。	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱がなく(解熱後1日以上 経過し)、普段の食事ができ ること	無菌性髄膜炎の恐れがあるの で、頭痛、嘔吐に要注意。
19	伝染性紅斑 (りんご病)	4~14日	軽い風邪症状後両頬に紅色斑や四肢に網目状 の発疹。痒みほてり。	飛沫感染	全身状態が良好であること	発疹が出た時ウイルスの排出 は、ほとんど終わっている。
20	ヘルパンギーナ	3~6日	発熱。口の中に小さな水疱、 潰瘍ができ、痛い。	飛沫・接触 ・経口感染	発熱がなく(解熱後1日以上 経過し)普段の食事ができ ること	春から夏にかけて流行。 排泄物の取り扱いに注意。
21	RSウイルス感染症	4~6日	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難 乳児(6か月未満)は重症な呼吸器症状 を生じる。	飛沫感染 接触感染	呼吸器症状が消失し、全身状 態が良好であること	非常に感染力が強いため施設内 感染に注意が必要。(特に0歳児) 排泄物の取り扱いに注意。
22	帯状疱疹	不定	神経痛、刺激感を訴える、小児では掻痒を 訴える場合が多い。 多数の水疱(水ぶくれ)、紅斑	接触感染	全ての発しんが痂皮(かさぶ た)化していること	水痘の免疫のない児が帯状疱疹 の患者に接触すると水痘を発症 する可能性あり。
23	アタマジラミ	10~30日 (卵は 約7日で孵化)	耳の後ろ、後頭部を痒がる。卵は髪 の生え際、耳の後ろ、後頭部に産みつけら れる。一見ふけのようだが、払っても 落ちないのが特徴。	接触感染 寝具等の共用	駆除を開始していること	頭を近づけ遊ぶ時や午睡時など 伝播しやすい。家族内でも伝播 するので家族同時に駆除する ことが重要。

参考 保育所における感染症対策ガイドライン(こども家庭庁)

☆ 予防接種はお子さんの体調のよい時に、かかりつけ医と相談して受けましょう。

